

離島・地域医療代替実習

2020年1月～2020年7月

対象:医学部医学科6年生(合計125名)

例年の実習が行えず、代替えとなる。

趣旨

学生は、実習終了時に離島・へき地で実践されている、医療・保健・福祉・介護の活動を通して、鹿児島島の地域医療を取り巻く医療の現状と課題について認識し、医療・行政・家族・社会など包括的なシステムとして地域医療を捉えることができる。

さらに、各地域医療従事者、および地域住民との関わりを通して、地域で求められ、地域医療へ貢献する医師としての態度・倫理観・社会性等を涵養することができる。

学習目標

- 1.地域医療を取り巻く医療の現状と課題を説明できる。
- 2.地域医療に従事する医師の果たす役割について自覚し、行動できる。
- 3.地域医療、保健・福祉制度それぞれの機能と連携を理解し、患者を中心とした多職種連携とチーム医療について、説明できる。
- 4.個人、家族、地域における疾患と医療の多様性を理解し、全人的医療について述べるができる。
- 5.プライマリ・ケアについて説明できる。
- 6.在宅医療に参加し、在宅医療について説明できる。
- 7.地域医療に参加し、基本的な診療を実施できる。
- 8.離島・へき地の医療で工夫されているシステム(遠隔医療システムなど)について説明できる。
- 9.地域完結型医療と循環型地域医療連携システムについて理解し、医療資源の適切な分配をふまえた倫理的で最善の医療を選択できる。
- 10.患者とのコミュニケーションを適切に行い、良好な医師—患者関係を構築することができる。
- 11.心理社会的背景を含む患者の抱える問題を包括的に捉え、介入計画を構築することができる。
- 12.患者を支える医療・保健・福祉・地域の連携について、包括的なシステム(地域包括ケアシステム)として地域医療を捉えることができる。

代替実習の概要・方法

【グループディスカッション】

【課題1】 論文を読み、論文の内容(Clinical Microsystem, Bio-Psycho-Social model)について、他の人がわかるように発表する。論文はMoodleに掲載。

・事後レポート:論文を通して学習したことをA4 1～2枚程度でまとめる。

【課題2】 事例をClinical Microsystem,またはBio-Psycho-Social modelを用いてアセスメントを行う。各理論を事例に照らし合わせ、アセスメントを行う。

アセスメントは、各理論を説明できるように、図式化して説明すること。

・事後レポート:図式化した図、および理論を用いてどのようにアセスメントを行ったかを文章にて説明する。

【課題3】 グループメンバーの組み合わせを変え、Clinical MicrosystemとBio-Psycho-Social modelを学習した人はそれぞれの理論について説明し、お互いにそれぞれの理論について深める。

各理論を事例に照らし合わせ、Clinical Microsystem とBio-Psycho-Social model両方を用いて、アセスメントを行い、図式化して説明する。さらに、アセスメントに基づく介入法(どのような方針でどのような対策をとるか)についても検討

・事後レポート:図式化した図、および両方の理論をもちいてどのようにアセスメントと介入を検討したかを文章にて説明する。

【課題4】 自らのポリクリで経験した事例を振り返り、Clinical MicrosystemとBio-Psycho-Social modelを用いてアセスメントと介入について再検討する。グループ内で両方の理論を用いた検討について話し合い、発表する。また下記事後レポートのテーマについてグループで話し合う。

・事後レポート:自らが医師また地域を活性化する立場になったときに、臨床や地域での取り組み、様々な運営・経営において、Clinical Microsystem とBio-Psycho-Social modelを用いることで、どのような場で役立てることができそうか検討する。

これらの理論を用いることで、どのような効果が生じるか考える。

・今回の学習を通して学んだ事。

【健康講話】

健康講話のテーマを各グループで決め、15分程度の健康講話を発表。